836
209
3

# 茅草年録

鬼報録
外録

百五

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

於京都御達並御届　上中下

於松代御達並御届　全

戊辰甲州出兵御達並御届　上中下

戊辰信越奥出兵御達並御届　上中下

此四部今月日ヲ追テ後合縢写ス史官庶ニ考ス者ト可ス

大正
9. 5. 27
購求

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

標紙

戊辰正月ヨリ三月迄一身上ニ付御達一
類伺及四松代藩関係ノ御達並
諸伺等書写原文書留写

本表題 明治元戊辰年正月ヨリ十二月迄

# 御達並御届書扱ホ

(或) 明治六年癸酉学習院一号御達ニ由テ歴史課ヘ書出ス分ニ

六冊

従四位奥田章民

於京都 御達并御届上中下

鬼報録所收者略

## 一 正月九日

御所御仮建ニ於テ坊城殿長答殿列座ニテ御沙汰書
徳川慶喜天下ノ形勢ヲ不得止ヲ察シ大政返上将軍
職辞退相願候ニ付 朝議ヲ上断然被
仰唯大政返上ト申ノミニテ於
朝廷土地人民御保不
被遊候ニ付 立委曲尾張二藩
ヲ以其実効御伺ニ及候節於慶喜ニ幾心ヲ
尽シ不美服仕義一条挙
可仕哉ニ難計候ニ付只管鎮撫ニ尽力仕候旨

尾、越ヨリ及言上ハ慶喜真ニ恭順ノ
意ヲ含ミ候段　思召既往ヲ深ク不被為問
ヲ御誓書ヲ以テ　仰付ラレ
引取候ハヽ速ニ謀ニテ去三日慶下ノ者ヲ
引率シ剰ヘ　御所ヲ奪ヒ奉ラント企候大逆無道最早於
明白始終奉欺　朝廷
御宥恕ヲ道ヲ御処置ヲ得止追討被
兵端ヲ開キ候ハヽ　朝廷
将軍ヲ委任ヲ者ヲハ是迄
諸藩ノ手過ヲ而
詔勅ニ背キ候者ハ勿論今般
恭順謹慎ニ従ヒ
忠誠ヲ尽ス者ハ其罪ヲ赦シ
思召ニテ
御座候ヲ以テ
或ハ潜居ヲ致ス者ハ
朝敵ヲ以テ
但シ征討大将軍ヨリ
嘆願ノ筋ヲ以テ
至リ候上ハ即時
或ハ勿論ヲ得ヲ於
至リ候ヲ以テ
延ノ慶三日ヨリ今七日ニ

兵具ニ不被得止断然本文ノ通被　仰出候各ニ藩
陪従吏卒ニ至迄方向ヲ定メ為天下奉公可
有之候事

二　正月十日

御所御役筋ニ於テ万里小路殿久我殿列座別紙之趣相心得候
松平備前守殿ヲ以御書付御渡
今般御下向ノ儀有之哉　且不得止事到今日形勢ニ付大
別紙　御趣意相心得国力相応人数可差出事
御口達
主人所労ニ付為名代罷出候ニ付右等之趣役エ申達候事
伺
別紙御書付之趣ニテハ主人上京ニ不及候義ニ可有之哉
御口達
右伺ニハ参候事御下向ノ儀ハ御流レニ相成候事

三　正月十二日

徳川以下官位被召止　姓名ハ追　鬼報録第一十三号ニ在

四　正月十三日

参与役所ニ於テ出席人松平伊勢守ヲ以御渡候書付
　美濃　濃州　大垣
右ハ是迄御不審之次第有之候ニ付被止入京ニ候処
之通追々相立今度賊徒追伐ニ　仰出ニ付鎮撫使御差之
相成ニ付北陸東山二道之先鋒為御被仰付　仰付成候之後

別紙　君名一の為ニ義ニ奔ル而已ノ事ニ非ス

為ニ国ニ尽ス事ニ

五　晋吉丸一日　事迫ル所ニ付使ノ　鬼報録一ノ二ノ五ノ在

六　二月四日ノ報知　全巻三ノ十六号

七　二月二日ノ出船ヘ松宮日誉ノ送ル　全三ノ十四号

八　二月八日ノ飛脚ヲ以テ　手山送ル　全三ノ十六　全九七号

九　全日信濃国飛脚頭北条作　全九四号

十　全九日ノ達ニ

布告文ノ趣ヲ以テ

松　二月十日

高松藩、京師騒走ニ付巡達　鬼報録一ノ二ノ在

十一　二月十五日

太政官ニ於テ松尾但馬ヲ以テ九州ノ鎮撫ヲ命ス

御親征大号令

有栖川帥宮

錦旗奉行

筑波ノ役

阿蘇大夫

日柱子

平岡権判事

山中右近衛将監

三好右近衛権少将

座田右少弁

改名

東園通先鋒兼鎮撫使ノ命

正親町中将

西四辻大夫

西郷吉之助

林玖十郎

日次ノ線

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

副
　　柳原侍従　　同参謀
改号
東山道先鋒総督従者　同参謀
　　岩人名大夫　　乾　退助　宇田栗園
北陸道先鋒総督従者　同副
　　高倉三位　　同参謀　　山人名大夫

少将桑古　津田山三郎
奥羽鎮撫使　同副
　　澤　三位　　醍醐中将
同参謀
　　富田弘助　品川弥二郎
海軍総督
　　聖護院宮
同参謀
　　庭田大納言
　　中山前中将
　　仁和寺宮
　　坂田左馬進

右之通被仰出候事
三月十八日

兼テ御達有之通申上

一 銃隊三百拾弐人　一 右指出ス共拾六人

一 砲六挺　一 右同断

一 指揮ヲ執ル人　一 以下指揮ヲ執ル人

一 又者ヲ五拾人　一 弐拾人

以上

右之人数東山道出張ヲ仰付ラレ候間、此段申上候也

二月廿日　何某

大政官ヨリ布告書ヲ以左ノ通被仰出候ニ付奉承知候事

今般　御親征御軍旅ニ付宿駅人馬ヲ始メ諸民ノ難儀ニ立至ル可申哉ニ付御所置ノ儀モ有之候ニ付テハ御軍旅ノ御通行ノ節ハ勿論ノ事ニ候ヘ共御帰輦ノ後ト雖モ左ノ通リ御渡シ被遊候事

辰何月何日何ヲ迎往来又ハ元道

何州　何条何某
上下何人

又ハ無隊ニテ

辰何月日何新
何州

銃隊以上何人
支方之者何人
並何人

軍防局章
大總督府章
諸道總督章

右之通京都ヨリ發途ニ面ニハ來ル廿五日ヨリ出先キ諸道ヨリハ
翌日ヨリ市鑑ヲ以往來被　仰付御府内ハ勿論諸藩ニヨリ兼
テ御印形ヲ市鑑改手續ヲ以可相心得事
但陸軍奉行ノ印ハ最寄ニ軍防局ヘ申出ヲ以通上事

二月　　軍務局

大總督府印鑑

二寸方
川口
鑑印
府督

二寸方
東京
府印
鑑

二寸方
東京
府印
鑑
軍防局

（西）二月廿八日

大政官ニ於テ松尾豊前ヲ以テ通ヲ向ノ處御沙汰ニ及ヘク
別紙寫ニ通當八日御手當ヲ以被仰渡候ニ付急ニ在所表ヘ
申越ニ付其筋ノ者共遠國ニ候ニ付手ヲ以被調書來迄暫ク
當家御勘考被下候ハヽ其節出張ニ家ニ勘仕ノ者ニ而
可申候又急ニ在所表ヘ申越候ニ付ノ者ニ而ハ
後ニ差下ニ候ニ付ノ者ニ而ハ

二月廿八日　　奥田行澤

第一號札

急ニ御沙汰ニ通同方市中人數ニ而調次第出張ニ候ニ付
暫ク御猶予ノ程人數調書ハ追テ軍務官ヘモ一ツ

松 二月二十日
東山道後詰差御遣
駈ニ兵合撃掛ノ
鬼報録三ノ下ニ
委細在

甲一 二月廿日大総督ヨリ甲州出兵ホノ
亥三 朝日

一筆啓上仕候 扨今般東山道先鋒総督被
仰付候ニ付テハ 御人数ノ儀ハ兼テ御打合
之通ニ候得共 尚又此度御人数ノ儀ハ
左之通ニ御繰出シ可被成候 尤御人数
之内ニ而モ 別紙ニ記載之通 先鋒ニ
相成候ハヽ 其段ハ御承知可被成候
此段申上候 以上

二月廿日

東山道先鋒総督
参謀
西郷吉之助
大山弥助
伊地知正治
海江田信義
木梨精一郎
原口清
高木三郎
橋口壮助
奈良原喜八郎
有馬藤太
中村半次郎
村田新八
吉二郎
川村純義
伊東祐麿
川上彦斎
河野主一郎
中井弘蔵
祖式金八郎
大村益次郎

一 諸手ニ而 弐百人 一 後詰 弐百人
一 海軍 弐百人 一 仲間 弐百人
一 会津 弐百人 一 薩 弐百人
一 長 弐百人 一 土佐 弐百人
一 肥後 弐百人 一 筑前 弐百人
一 安芸 弐百人 一 尾張 弐百人
一 因州 弐百人 一 伊予 弐百人
一 阿波 弐百人 一 筑後 弐百人
一 久留米 弐百人 一 柳川 弐百人
一 大垣 弐百人 一 高松 弐百人
一 鳥取 弐百人 一 徳島 弐百人
一 岡山 弐百人 一 津和野 弐百人
一 福山 弐百人 一 佐土原 弐百人
一 大洲 弐百人 一 松山 弐百人
一 小倉 弐百人 一 岩国 弐百人
一 薩摩 弐百人 一 大村 弐百人
一 佐賀 弐百人 一 鹿児島 弐百人
一 熊本 弐百人 一 人吉 弐百人
一 秋田 弐百人 一 庄内 弐百人
一 仙台 弐百人 一 会津 弐百人
一 米沢 弐百人 一 二本松 弐百人
一 棚倉 弐百人 一 三春 弐百人
一 守山 弐百人 一 水戸 弐百人
一 笠間 弐百人 一 宇都宮 弐百人
一 壬生 弐百人 一 黒羽 弐百人
一 大田原 弐百人 一 烏山 弐百人
一 佐倉 弐百人 一 館山 弐百人
一 忍 弐百人 一 川越 弐百人
一 岩槻 弐百人 一 高崎 弐百人
一 安中 弐百人 一 小幡 弐百人
一 吉井 弐百人 一 伊勢崎 弐百人
一 七日市 弐百人 一 沼田 弐百人
一 小諸 弐百人 一 上田 弐百人
一 松代 弐百人 一 須坂 弐百人
一 飯山 弐百人 一 高田 弐百人
一 糸魚川 弐百人 一 村上 弐百人
一 新発田 弐百人 一 黒川 弐百人
一 三日市 弐百人 一 長岡 弐百人
一 与板 弐百人 一 三根山 弐百人
一 椎谷 弐百人 一 柏崎 弐百人
一 出雲崎 弐百人 一 高田 弐百人
一 村上 弐百人 一 黒川 弐百人
一 長岡 弐百人 一 三根山 弐百人
一 与板 弐百人 一 椎谷 弐百人
一 柏崎 弐百人 一 出雲崎 弐百人

吉ハ東山道出兵諸正人数并ニ参謀御

下等人数同断其儘ニ而ハ
不叶ニ付人数ニ応シ無賃ニ而
ハ不相成ニ付人数ニ応シ
ニ而ハ
ニ而ハ

甲二月廿七日東山道信州ニ而
甲斐ニ而ハ

甲三三月二日

信州下諏方駅東山道信州ニ而
軍ニ義及ハ而ハ信州ニ而ハ

甲三三月二日

信州高嶋ニ而東山道ニ而
ニ而ハ

松甲四三月四日

信州追分駅ニ而東山道信州ニ而
相成ニ而ハ

追分ニ而ハ

右之外別ニ我ニ而ハ
等ニ而ハ

右之外ニ而ハ

所柄ニ而ハ

和之ニ而ハ

甲五三月五日

東山道信州ニ而ハ

越將大久保剛介里別府沼驛ニ布陣官軍ハ抗スル報知ヲ
ウケ當地ヨリ四五人數今夜中ニ進撃シ其落人ヲ殺
里ニ有中ニ陽込ヲ抜ク
右ノ外逐日陽込ニ到着ニ本陣徳軍ヨリ
追ニ軍

里六 三月六日雲ヲ以テ申ノ刻ヨリ降三作一尺余ニ而二号
猶又雪尾遠近ヨリ左ニ記ス
守成ヨリ義貫若狭ニ佐ヲ有金ヲ數ヲ
一ツ里又ニ國ヲ京ヲ申ヲ有ノ綿ヲ義ニ有ヲ
計陽ヨリ五ヲ里ヲ大半ハ黄雪ニ中佐ヲ
ハ里ヲ有ノ程ヲ有ヲ義ニ 別紙二ノ如ク有事

○賊軍勝沼驛ニ有ヲ一同ニ西ヲ落ニ
ル為ニ逐ニ引渡ヲ有人數ヲ徳ニ得ヲ
ニヲ二ニ川崎ヨリ佐ル

里七 三月八日

市川代官某不富ヲ義ヲ有ヲ一同ニ新陣屋ヲ有ヲ
ノ後ヲ某ヲ謀ル所ヲ逐ニ知ヲ一ツ陽ヲ兵ヲ後ヲ員ヲ有ヲ
ル為ヲ廣ヲ多ヲ和陣屋ヲ無ニ賊佐ヲ入ル
義同刻ヨリ中ヲ漸ヲ已ニ市川出ヲ
庵市川代官不富ヲ手佐有ヲ名和陣屋ニ得ヲ
ル為ヲ逐ヲ則チ市川出ヲ
ヲ中ヲ三 ヲ義ル

○左之名前ヲ掲ケ、報賞ヲ請ケ候者ハ、速ニ申出ヘシ、若シ隠匿シテ後日ニ至リ露顕スルニ於テハ、厳重ニ処分スヘキ事

此書面ニ記載ノ以外ニ、尚ホ報賞ヲ請ケント欲スル者ハ、其ノ証拠物ヲ具シ、名乗リ出ヘシ

巳三月九日

東山道総督ヨリ別紙ノ通リ布告相成候ニ付、此段相達候事

巳三月

京都府

左之通リ布告候ニ付、此段相達候事

巳三月

東山道総督

今般官軍ニ敵対スル者ハ、賊兵ノ別ナク、一切ヲ殺戮スヘキ旨、仰セ出サレ候ニ付テハ、其ノ罪ヲ悔ヒ、降伏スル者ハ、之ヲ寛大ノ御処置ニ被仰付候間、此旨布告スヘキ事

巳三月十日

太政官

今般奥羽征討ノ為メ、仰セ付ケラレ候諸藩ノ兵隊、信濃ヨリ会津ニ至ル道筋、人馬継立ノ儀ハ、慶応四年十二月中、行幸ノ節ニ準シ、取計ヒ方ノ儀、御沙汰候事

一、御通行ノ節、病気発生候トモ、決シテ途中ニ差置キ候儀ハ、厳禁ニ候事

一、病気発生ノ者ハ、其ノ地ニ於テ、治療ヲ加ヘ、全快ノ上、跡ヨリ追送スヘキ事

一、病気ノ者ハ、勿論、其ノ他ト雖モ、人馬ヲ雇ヒ入レ候節ハ、賃銭ノ儀、取極メノ上、雇ヒ入レ、決シテ掠奪ノ所業無之様、厳重ニ可申付事

一、人馬ヲ雇ヒ入レ候節ハ、賃銭ノ儀、取極メノ上、雇ヒ入レ、決シテ掠奪ノ所業無之様、厳重ニ可申付事

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

癸三月十六日

大海官代矢事の為新ニ於テ松室軍曹ヲ以テ
号砲下ニ一の和達ニ当ル事

東山道官軍先鋒ヨリ戦勝軍敗走ニ付テハ後
事の道ニ於ケル諸事計略ニ関スル条 尊王勤
皇ニ出精事ニ候ハヽ其ノ功ヲ賞スヘキ事

一の書ニ云 諸の侯ハ本ヨリ王事ニ
○諸藩征日ニ於ケル近引ニ付テハ御警衛ノ
外社 海条伝国新 御一洞ニ於テハ一洞
ヲ三ツ 海軍艦ニ於テハ海軍艦ニ
於テ



為在ニ旨社 作出ス事
但シ大海官代ニ移ル後ニ於テハ
甲八三月十二日
先ヲ止ムル

於甲斐国道往智峠ニ徳川慶喜ニ
ニ於ケル物ノ八人 兵軍人ニ於テ
津藩ニ引渡ス事ニ
甲九三月十八日
東山道往智峠ニ於テ通徳
甲斐徳ニ後 為ニ通ス事ニ
軍ニ於ケル慶喜道往智峠
ニ於テ一ノ城代出ス事
ニ於テハ人数ニ通ス

極密中ニ常在所へ出張いたし候以上　三月

三月十九日

尤ニ当日両本幸御役人ニ差出ニ而御尋問之上御談判ニ及ひ候処遣兼候ニ付
信濃守殿此程中御帰府ニ付通達ニ相成先方承知ニ付上
京仕度由申聞候ニ付江戸表相伺候上信濃守殿相成候ニ付右京
大夫ハ是迄相伴仕候得共其上ニ而領内ヘ罷帰候ニ付
通行之儀ニ付右ニ而表ハ此者共ニ申付出張致候上京
一同ニ付今ニ我心得其後東山道御先鋒　御総督ヨリ
萬事ニ付　仰付并ニ東山道出兵人数ニ付申付候儀ニ候処
仰付候由ニ付人数差出之儀ハ宜敷旨信濃守ニ而出張ニ付
御用ニ而ニ日ハ御差支其上信州岩村田ヨリ上州安中宿迄御

先鋒ニ付人数御警衛方并宿駅御警衛等之儀ニ付　仰付信濃守
殿ニ候是迄之殿ニ者御伺之上京之儀御見合之旨御承知成候右
之趣御請申上候様申付越候儀ニ付此段御届申上候以上
三月十九日　　　　右田信濃守内
吉川　深兵
御所ヘ
信濃守上京延引之相成候ニ付届書差出

三月廿日

太政官代弁事御役所ニ於テ十時揖津ニ而左之通御渡相成候且御下ケ之
左之通御達
徳川慶喜御處分之儀於　朝廷ハ謹慎御赦免之上　恩
命御沙汰ニ仰出之處問罪之實定之名ヲ以テ征伐之上罪記度
也ニ付当日ニ奉行相達之正月三日以来ニ参事之致違之者其

深天下為民之災不得已而故不出為得止大將人を御発
表候て　御要動之以　御親征之　仰出為　玉之諸侯
私情ヲ捨テ公義ニ基キ諭兵大義ヲ弘メ賊城ニ
相隙ヲ折柄英断御選ニ実効ヲ更ニ尚先使ヲ行
遣ホヨロ実ヲ以テ信軍相顧ル次第
為ニテ為ニ至ル迄天下後世ニ対シ文テ　御作容易ラ
遊ス後ニ之者ヲ御容ス為ニ　在ラテ京都条
条ヲ輸ニ出ス哉ニ難計御修理上ハ自為彼ニ情実
筋ヲ御推量被成却テ人心ヲ誤惑ヲ生シ少モ以テ
場合不容易候ヘ共大義名分ヲ篤ト弁ヘ決断ヲ以来私ニ
文面ヲ以後ニ於有之ハ逆徒ニ均シキ罪ニ処セラルヘキ事

早飛脚ヲ以申上候

一つゝらゝ

（早）飛脚ヲ以申上候高原調差出ス左之通
ヲ面ニ写

兵隊六百拾八人　内訳官弁拾弐人
持夫百七拾八人
合七百九拾六人

右之通ニ候

（黒）三月廿一日

旅東京東山道御鎮撫ニ右之通御届面

覚

甲州山梨郡
筋沼村名主
惣左衛門

甲州
徒士
独歩之人

大総督御

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

人數二於九人
此家古名九計古年　但古
右ハ精沼宿地ニ於テ戦争ニ
家内ニ百二テ
甲斐ノ人
人数古百二テ古於テ
此家ニ百ハ於七名七計　但
右ハ安宅ニ、此家ニ百
問屋家ニテ古百ニ徳兵
ト家高ニ百ハ於九名ニ
右ニ今般東海道往来百姓
談判ニ百ノ別ニ石夫ニ相
請證文ニ差出申候ニ
六居ニ百
右之通相違無之候ニ
相手某ニ
少左ニ
黒二月廿二日
出張ニ而御申請書面之通ニ
違無之候ニ
黒三月廿四日
東海道往来

三月十五日 減進撃之命令を改め
彰義の輩逃去候ハヽ其儘兵隊繰込
うらゝ 大総督宮被
右之通御沙汰候事
うらゝ

京七 三月廿四日
大政官軍防局ヨリ総人数増減ハ
さしつかえ無之事 但
一 弐百 銃百挺
弓百張 矢百筋 十人
一 持筒 銃十人
右三ヶ所之
某藩
某藩
某藩

右之通御沙汰候事
うらゝ十七日
弓銃之儀ハ其通相心得候事
うらゝ

京八 三月廿四日
軍防局ヨリ弁天台場詰之藩
右之通御沙汰候事
うらゝ

古賀守之家来人数不引揚候
右之通減候ハヽ其節ハ
うらゝ

軍防局

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 何百人
　何万人
　何千人
　何百人
　　斬テ
　　何千人
一 何千人
一 何万
右之通之敵之死骸之形之上
何之寺之境内之集
り

（安政三丙辰年）三月廿六日

大砲改官代軍談石ニ於テ松尾豊前、左之通
　　死
敵之人数
一 三拾八人　　浅羽
右之位所ニ而ハ余程辻之人数ニ而
左之通死有
一 八人　　斬
　　討之大数
一 八人　　斬
外ニ手負何程有之哉不知
一 八門　　小筒
　　大砲

浪人芙志敷名前
由緒書

山刕鄙朝気村
馬場立庵

私先祖之儀ハ武田之代ニ駿河国ヨリ引移り住
居仕候由ニ御座候得共代数家名等慥成
お事ハ不承伝候ニ浪人ニ而在候

山刕鄙朝気村
馬場立庵

私先祖武田之家ニ而代苗衣向竹菱之紋ニ
御座候并御家之御印鑑ニ而ハ無之候
尤禁制ニ而ハ無之候得共無用ニ仕候

山刕鄙北村
大村清右衛門

私先祖武田之家ニ而ハ無之候得共
孫大助行ニ而家内之ニ而ハ無之
お所持ニ而ハ無之候

山刕鄙北村
大村清右衛門

私先祖之儀ハ海野氏ニ而御座候
武田ニ而ハ無之候得共孫望月ニ而ハ無之

日野新井村
中川順作

私先祖より後、中川右中将芝保、淳風左近ちより朝義家ゟ
ニノ武田家ヨリ当年迄代々ニ而
就方ニ相渡来候所相違無之候、
山梨郡金川村
大澤四郎兵衛

私先祖武田家ニ仕候ニ而天沢蓮久ニ而ニ男清水ノ家ニ而下岩下村
原 三大夫

私先祖より後ニ武田家ニ仕候ニ而原隼人佐ニ而ニ百人の頭
当年迄ニ而十五代天正十年織田家禁制神祖ゟ朱印
数通賜り所持仕候

日野中小河原村
山下真九郎

私先祖五郎兵衛高安武田家ニ而ニ仕軍功ニ而ニ感状四通外ニ
当所ニ而ニ而ニ天正十年ニ而ニ本能寺ニ而ニ織田信長
ゟ御感状ニ而ニ而ニ天正十年ニ而ニ東国中ニ而ニ軍功ニ而ニ仰ニ而ニ相違ニ而ニ
山梨郡中小河原村
土橋宗造

私先祖武蔵守高安武田家ニ而ニ仕軍功ニ而ニ感状四通外ニ
当所ニ而ニ而ニ天正十年ニ而ニ本能寺ニ而ニ織田信長
ゟ御感状ニ而ニ而ニ天正十年ニ而ニ東国中ニ而ニ軍功ニ而ニ仰ニ而ニ相違ニ而ニ
山梨郡中小河原村
武藤喜三郎

私先祖武蔵守城ゟ武田家ニ而ニ仕天正十二年ニ而ニ長篠
人ゟ数ゝ軍功有之ニ而ニ同十二月七日ニ而ニ神祖ニ而ニ東京ニ而ニ
お仕ニ而ニ申ニ而ニ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

御奉行様へ通ニ而指出ス

次ニ

武田家ヨリ領田西蔵ニ賜ル文御奉行様ヨリ拝領田瑞ニ賜ル御使御奉行様ニ而御渡ス

拵ニ而文家家名明ニ而ハ田

仕ル先年出城代近藤有故坊ニ而

持参ス

巨摩郡七ヶ村畑村

田中隆右衛門

武田家ニ仕ヘ田中豊前家ニ仕ル

田中隆右衛門ハ一旦

武田家ヨリ田中瑞ニ賜ル文御奉行様へ通ニ而

感状ニ通田家ヨリ田中兵部ニ

感状ニ通ニ而ハ

武田家ニ仕ヘ竹川伊馬守家ニ仕ル

家ヨリ竹川豊前ニ賜ル文御奉行様へ通ニ而

持参ス

巨摩郡下ノ条村

三枝勝三郎

武田家ニ仕ル三枝土佐守孫三枝吉兵衛

家ヨリ同豊前ニ三枝傳右衛門

巨摩郡布施村

右衛門次郎

武田家ニ仕ヘ小沢弥右衛門家ニ

武田家に仕へ奉り候間預かり申す
一、被下置候書付通
一、御家中へ御通行の節
御馬印
一、御家老二人へ被下置候
御馬印
一、御家来へ被下置候
御馬印
一、御家来へ被下置候
御馬印
右之通相違無御座候
以上

武田家に仕へ奉り候間預かり申す
一、被下置候書付通
一、御家中へ御通行の節
御馬印
一、御家老二人へ被下置候
御馬印
一、御家来へ被下置候
御馬印
一、御家来へ被下置候
御馬印
右之通相違無御座候
以上

巨摩郡飯田村
飯田多仲

八代郡宮原村
有野亮之進

加賀守被下置候御馬印
巨摩郡飯田村
小沢勘物

武田家に仕へ奉り候間預かり申す
一、被下置候書付通
一、御家中へ御通行の節
御馬印
一、御家老二人へ被下置候
御馬印
一、御家来へ被下置候
御馬印
一、御家来へ被下置候
御馬印
右之通相違無御座候
以上

巨摩郡高室村
高室五郎右衛門

代々武田家に仕へ奉り候間預かり申す
一、被下置候書付通
一、御家中へ御通行の節
御馬印
一、御家老二人へ被下置候
御馬印
一、御家来へ被下置候
御馬印
一、御家来へ被下置候
御馬印
右之通相違無御座候
以上

巨摩郡こうの村
桜井保松

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

大政官代里務局ヨリ於テ松室豊後ヲ以左ノ
通達書ヲ出ス

京 六五 仝 十二日

大政官代里務局ヨリ於テ松室豊後ヲ以左ノ
件々ヲ府下ヘ布告ス

十一日引續面會御相談之後二條亞相
有當行御參內
長谷川深史
ヲヲ十二日

京 十六 四月十四日

太政官代辨事出仕有之於宮中要ヲ以テ左之通可達旨
相達ス

話長參朝御制度之儀ニ付要ヲ以テ申出候ニ付而ハ
別而當正月ヨリ後不容易御時節ニ付
勿論ニ候ヘ共御勞ヲ
知勞セシメ候旨ヲ以テ
思食ヲ
以テ
御沙汰候事

右之趣被仰出候樣致度此段申入候也

相濟事有
勅奉答議定職參與及ヒ
輔相
掌交

右ノ通被仰出候事

殘黨一ト先ツ鎭靜ニ
赴キ候ニ付テハ
御警衛
ノ
爲在京ノ
御親兵ヲ
國内ノ
平定ニ
モ不
拘ヲ
以テ
御警衛
ノ
爲
御親兵
將又
多
ク
ノ
藩ヨリ
出兵
ノ
儀ハ
御沙汰
ニ
及ハス
候事

一大藩四千人ヲ二大隊
一中藩二千人ヲ一大隊
一小藩三千五人ヨリ
下人迄

但右人數ノ儀ハ兵隊ノ
多寡ニ
不
拘
可
成
丈
ケ
減
少
ノ
見
込
ヲ
以
テ
編
制
ス
ヘ
キ
事

一
御親兵
ノ
儀ハ
追テ
御
沙汰
ニ
及ヒ
候
迄
ハ
從前
ノ
通
リ
諸
藩
ニ
テ
守
衛
ス
ヘ
キ
事

一
諸藩
ニ
テ
兵隊
ヲ
編
制
ス
ル
ニ
付
テハ
其
藩
ノ
石
高
ニ
應
シ
テ
大
砲
小
銃
ノ
數
ヲ
定
メ
ラ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
名
稱
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
服
制
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
號
令
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
軍
律
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
編
制
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
操
練
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
屯
所
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
出
入
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
給
料
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
賞
罰
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
解
隊
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
廢
止
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
再
興
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
改
革
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
增
減
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
移
動
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
交
代
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
休
暇
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
病
院
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
葬
儀
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
墓
地
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
追
悼
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
祭
祀
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
表
彰
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
記
念
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
碑
文
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
銘
文
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
歌
詞
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
音
樂
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
旗
章
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
標
識
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
徽
章
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
記
章
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
標
章
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
印
章
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
符
號
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
暗
號
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
合
言
葉
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
呼
聲
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
喇
叭
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
太
鼓
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
鐘
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
笛
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
鼓
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
角
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
貝
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
螺
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
法
螺
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
太
鼓
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
鐘
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
笛
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
鼓
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
角
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
貝
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
螺
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
法
螺
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
太
鼓
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
鐘
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
笛
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
鼓
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
角
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
貝
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
螺
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

一
兵隊
ノ
陣
法
螺
ハ
其
藩
ノ
隨
意
タ
ル
ヘ
キ
事

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

○三通出兵ニ而行屆候譯ニ付姓名ニも及ひ不申
中々ニ行ニ振合有之候ニ付天下ニ相聞
ニ敵ニ内通ニ而も有之候ニ付
御知行ニ而御取上ニ相成候ニ付
ニ而
一行軍之節ニ付一切之乞食ニ止ル事
一病気ニ而歸宅之節ニ限リ許ニ而
右之通ニ付
一軍勢ニ而通行之節ニ付
一切之乞食ニ止ル事
右之通ニ而通行之節ニ付
軍務局

一日壹人ニ付
一白米　三合　一人ニ
右之通ニ而軍中ニ而ハ
人ニ付一方ヨリ二通ニ付
京　二七四月十五日
右之通ニ而御通行之節ニ付
以上
軍務局

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

之高通部ニ而被下候ニ付通用御座候哉
四ツ時ゟ雨ニ上り
右之通　尾崎将曹

二十七日
徳川元千代　右為名代罷出候　宮田丹波守
有馬修理大夫 一柳對馬守 京極飛騨守
右日割之通新居並淀村撰供掛調役　仰付候旨
為一同承知之事
但辰半刻頃出張罷出候處 四ツ時

一 當朝辰半刻ゟ淀之人数出張掛り相勤候
一 御目付方撰供之者御用相勤候
一 無滞所之儀相勤候
一 御殿之御用之者御用相勤候事
一 淀淀之者ニ而勤候事

今般二十七日新居淀村撰供掛り御用調候處　仰付
候ニ付御用之儀者無滞御用之人数之義

之通被調申上候通在京之者二十八人之内

下役之者之義 仰付候

十日ゟ夜人数出張之儀相勤候

小人数之儀 二十人撰供之者出張

其外之者追々相勤候

右調候之儀御用之儀以上

八月十八日　　真田伊豆守内　[illegible]　川深[illegible]

（甲）（十五）四月十九日

於甲斎同所御侍代ヘ左之書面を出

甲斎[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月十八日

真田伊豆守内　[illegible]

[illegible]

（亨）（二八）四月廿日

調練[illegible]

佐川元千代　一柳[illegible]

真田伊豆守ニ田丹波守　松平大和守　[illegible]

[illegible]　一柳[illegible]　[illegible]　松平[illegible]

[illegible]二十七[illegible]調練[illegible]

[illegible]

口定士条[illegible]文略

（甲）（十六）四月廿一日

於甲斎左之伺書御城代ヘ差出　口[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

新一二七 急使ニ而四月…[illegible]…致候…[illegible]
真田信濃守…[illegible]
四月九日
[illegible] 官軍人数[illegible]…[illegible] 大垣[illegible] 二[illegible]
二千[illegible]…[illegible] 人数
[illegible]…[illegible]

甲 十六 四月廿二日
新東京東山道総督府より達 口二通[illegible]…[illegible] 在
別紙之通…[illegible]…[illegible]
東山道総督府 執事
四月十六日
真田信濃守
甲府城守衛…[illegible]…[illegible]…[illegible] 戦[illegible]

准[illegible]…[illegible]…[illegible]
[illegible]
本国[illegible]…[illegible]…[illegible] 人数引揚[illegible]
[illegible]…[illegible]

東 二九 四月廿三日
大政官代[illegible]…[illegible]…[illegible]
[illegible]…[illegible]…[illegible]
[illegible]…[illegible]…[illegible]

北征御達書留 二 四月廿四日
東京[illegible]…[illegible]…[illegible] 鬼報御[illegible] 在

京 三十 四月廿五日

太政官辨事傳達所へ右之通御届
信濃守後當三月五日申上候通關東之
間モ未タ安心仕候形狀モ有之候付其
方仕度旨願之罷在候間上京之後於
御國元御用向等申談候為可然旨
其後別紙之通被仰渡候ニ付而ハ
之仕度候上歸國我後為留守居
付彼是深ク心配罷在候ニ付往ニ我後國新深迫ニ
今津人數多ク取詰之歩兵ニ而ハ
乱妨追ニ信濃國ニ屆我ハ義相守ハ付本多豊後守領分ハ
國ニ近キ地方ニ付豊後守領分ハ
第二ニ有之其後弥歩兵屯所ニ
警衛ニ信濃國相守ハ必要我ハ先
月十五日右出雲守ハ
近江國ニ而九ツ半頃ニ
九ツ信濃守人數引取候方ニ
百人余同方ニ先出本多豊後守トモ
方預リ之方ニ有之候間
代表帰京出役人ニモ
ル之我ハ帰京ニ付
ル之我ハ

大政官辨事傳達所ヨリ左之通沸騰ニ付
信濃守俊躰國教後命ヲ奉シ單騎追テ新發
俊躰ハ彼是深リ配心無在ノ處徃
歩兵等多勢徘徊及亂妨追テ信濃國ニ屆教
本多豊後守領分ヨリ俊躰ヲ教後國ニ近キ地方ニテ行
出張ノ旨ニテ臨時檢兵ヲ以申教ヲ攻ント
依之其夜ヨリ教後國出雲路ニ信濃國松本近
兵ヲ我皇國ニ出ル事四十九ノ艘ノ兩日ニ行着ノ人數右通ノ
國ヨリ豊後國ヘ多勢屯集ノ中ヘ合并兵方精ニ
カニ守田丹波ノ兩名在於近領ヨリ
申達候ニ付兵ヲ教申候ヨリ數度ノ
賊徒古屋佐久ヨリ歩兵六百余人引連防教後國出張
ヨリ十八日同出今町宿泊同十九日同出
宿泊ノ行程ヲ以相守ル事
出ル行程ヲ以無教後ヘ相進ノ
ヒ行候ニ付兵ヲ教申候ヨリ
教後ヨリ右教後ヘ

相廻り行渡候人数不多敗走ニ趣し鈴山表へ相向ひ候處来り引兵
下仕賊兵有之ニ付鈴山城下へ押入候得共先賊詞ニて不及右
ニ而一自引取些奉付候川元千代直孫此中野陣屋ヘ罷越
押来候由ニ付右陣屋詰至手少人数故先押募り候ニ付
有之候ニ付文申上候行届候別段人数貳百人余右地方ヘ差出
出其押取り申候行届候ニ而出張申候一ヶ仕候得共既存ハ
右節者申遣ニ而下六日再渡り候打手行分候人数を追ヶ差出
候後出張仕候義ニ可有之候得共兼而後御所ニ不容易形勢ニ相成
至而下総多勢行届候而押来候而賊軍有之而下向行届
守候ニ付微力近隣諸藩同様人数少ニ而義ニ付行届可仕候
深く心痛罷在候處右次第ニ付可申御座候ニ付先生奉下度候人数
ニ而日野に候代中野生候處中候一先引揚賊徒追撃方も
先守衛致候得共貳百人御遣ニ相成候得共先々之候
此節中上候頼行届候申付越下候得共此段申上候以上

四月廿六日

眞田行渡守家来
長谷川深美

宗 三 四月二十八日

太政官御布告候達所ニ左之通御沙汰ニ付鈴山藩願 願之儀ニ付御沙汰出

○第何號ニ鬼報録第五ニ在 三ノ号 二六号

右当墨屋者願之趣候ニ付此間中出候ニ付候別紙
之通順ニ而平情中出候事 朝廷深御子候
是ニ藩候ニ付候
候ニ付此上奉願候事ニ付 御寛大之御沙汰を願上

以上

北 三 四月廿九日

京都於太政官軍防局判事鴨脚下総ノ以後御渡ノ事有 北征ノ鬼報録 五ノ五十七ニ之在

北 四 閏四月二日

京都於太政官軍防局受宮大夫殿御渡

大隊旗 壹本 錦袖章 五百枚

北 五 閏四月五日 四月廿九日ニ 北代ヘ達タル八ツ目月二日ニ

東山道鎮撫総督府御陣営武州於熊谷ニ矢多喜宇田栗園ニヲイテ

御渡御書 意状鬼報録十壹ノ在

甲 十七 閏四月十五日

甲斐表義居候段受ノ者ニ御城代ヨリ口達

武州八王子小佛峠辺ヘ歩兵并江戸脱走之賊徒数百人ヒ

集ニ付八王子ヨリ急報有之ニ不容易義ニ付國存

ノ早ク人数出張有之度ノ報告有之ニ 右ノ通リ申達

北 六 閏四月十六日

東山道総督府監軍岩村精一郎ヘ於飯山城被出御書

今般本多家ヘ御達之趣御座候ニ付尾州藩ヨリ於飯山城守備之

人数引揚申候ニ付御届申上候以上

閏四月十六日 松代藩 河原左京

甲 十八 閏四月十七日

於甲斐御城代ヨリ達

上往国ヨリ江戸ヘ脱走之賊徒乗船ニテ豆州下田代ヘ改上陸ノ有

近ク薄氷ノ如ク致出張ノ義報知有之

甲十九 閏四月廿日

於甲斐御城代ヨリ達

三州網代ニ上陸ノ賊徒精ト説諭相加差得共 朝廷ニ敵
ス ル意有之旨ニテ富國忠勤ノ趣、ヒ仕示 幕府ヨリモ
朝廷ヘ伺之上何分之所置致度旨申越ニ付 山岡鉄太郎ヨリ申之ノ旨口達

甲二十 閏四月廿三日 今九月甲斐ヨリ届ノ後ヒ申立ノ如ク有リ

甲斐ノ儀代ヨリ援兵ノ義過ノ通有之ニ付 則一小隊差加差遣候
後賊ノ方ヨリ芙蓉ノ東山ヨリ西通後背ヲ衝キ候旨ニテ
去月中賊徒共從駿豆路富國ヘ侵入ノ砌最前薄氷ノ数ノ甲斐
守衛ノ外 仰付ラレ候ノ賊徒共本國ヘ侵入ノ跡由防戦ニ差俵
多勢ノ儀ニ付 幕府ヨリ人数早速引揚候様ノ相計ノ旨ニテ
引揚中候処賊徒甲州ヘ入込候趣相聞候ニ付急遽
帰、戦ニ及候ノ儀ニ付 御代出張ノ旨ニテ
達ノ儀ニ候ヘ共 幕府ヨリ人数差出候事
甲不取敢一小隊差出候ノ旨ニテ
候ニ付 閏四月

真田信濃守

甲二十一

於甲斐御城代ノ旨ヲ得左ノ通達有之

本文津ノ賊兵敗走黒駒村ヘ屯集ノ由相聞候ニ付富田有ヨリ
官軍ヲ以鎮撫為致銃砲可請取ノ旨人数ヲ被差向候

就テハ其地ヨリモ人数出シ、於先向街道取締方ニ致シ、彼是ト
申陳鉄砲等差出候儀ハ何分致シ兼、尤節ハ不得止事一ト致撃
候間、速ニ其地ヨリモ進撃致シ、當方ヨリ出張之兵ト相応援
一ト肩ニテ林房之助以下残賊共百人斗ヲ申付候間、可然
大總督宮殿　御出張之間、精々御承知有之候
四月十一日　　大総督府　参謀
中野宇右衛門殿

彦總是迄兵集候之人相分ハ、以後當分甲斐国並駒ヶ嶽在住
集メ之義ニ付、以之御達者之處、今般独文今日田安中納言殿ニ
係リ鎮撫トシテ山岡鉄太郎石坂周蔵被差出候、右鎮撫ニ
姿ニハ候得共未ダ持蔵弾薬等不差出候故、猶ニ願之通
有之付石坂周蔵外ニ両三人　差越候様被申、将又粟相渡り様
申達相成候然ル處、後ニ不服之者更ニ候ハヽ、如何之事ニ候ハヽ不得止事　官軍
差向討取候事ニ候、就テハ甲府安塞之地ニテ差当リ御達ニ及候
通、虚実之所詳差向候事之筈之旨　彦部ハ是迄之義願
然ルニ彦部迅速討取一ト御忠勤候
御答可有之事　甲府在住
中野宇右衛門殿　　大総督宮　参謀

京　三三　閏四月十四日
軍務官ニ於テ謹厚陸太郎ヲ以左之通被仰渡候、且閣下ハ一ノ
相違之無之通
別紙之通被仰出候ニ付、後兵ハ候五月朔日午刻迄當家相續候得者
無相違可申事

但兵員之儀ハ来ル七月中迄ニ差遣シ可申候

一 五月ゟ金納之儀廿日迄ニ京都御蔵屋鋪ニ持参可致事

軍務局

今般被 仰出候徴兵并軍資金之儀左之通相心得可申候

一 萬石七八万石ゟ之拾万石迄ハ石高ニ應シ相当出金之事

但之ハ十万石ヲ以定限トス

一 富商之者ニ而流弊無之自儘献納候者ハ格別之事

一 軍資金上納之儀ハ来ル五月一日ゟ五月廿九日迄ニ相納可申事

一 軍服并月給御賄等ハ 朝廷ゟ被下候事

一 在所ニ備置候兵隊之儀ハ 御用之節召出兵隊ニ相備可申候

右之通 閏四月廿四日

軍務局

京 三、 閏四月廿八日

軍務官ニ於テ五十川左京亮ヲ以左之通御達相成候事

諸藩

今般徴兵石高ニ應シ四十八人以上指出候藩ハ指揮官相副可差出候

右之人数之内一ヶ隊ニ可為事 後四月

甲 二三日

新田香之儀代ヨリ右之通達迄之趣

林昌之助家来共其外於越後手々人数二百人余拾名共ニ何分置候

右之者追テ当其筋ニ引渡可申候 大總督府

但シ引渡之砌ハ相心得候様 御沙汰有之候ニ付

閏四月 水野出羽守殿 大總督府参謀

於軍務官ニ於テ松尾但馬ヲ以テ左ノ
御留守中市中取締ノ儀ニ付諸藩出兵
甲二四 於甲斐徴士ヲ数ニ諸藩出兵ノ
黒駒驛ニ集ス賊徒一条ヲ
相用ヒ申ノ刻ヲ以テ謹慎罷在
得止旦暮ヲ御願ケ出ノ義モ
ヲル刻ヨリ未ノ刻其筋ノ
賊徒共ニ謀ニ謹慎ニ立
唯今情切迫不得止ト申
ハ第ヲ御達ニ有之候ニ不相成ケ
ヲ以テ御願ケ出ノ義ハ勿論ニ
御役論ニ
右ノ件々無疎漏取計
ヲ以テ諸藩ヨリ
甲二五 五月朔日
甲斐国徴士
ヲル刻ヨリ
ヲル刻ヨリ

真田信濃守

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

[illegible] 其朝ら
至急の御申越候間 [illegible]
[illegible] 早速 [illegible] 一手
[illegible] 差遣候 [illegible]

中津の儀 松代の儀 [illegible] 機川の儀 [illegible]
右之内松代屋敷 [illegible] 義之儀 [illegible]
[illegible] 兼而一手ヨリ [illegible] 情を迫 [illegible]
早々差遣候様 [illegible] 大弐之事 [illegible]
[illegible] 追々 [illegible]

猶又左之通申越候
[illegible]
[illegible]

異国船 [illegible] 追々 [illegible]
[illegible] 松崎左馬

石渡敬出張之旨 [illegible] 作蔵 [illegible]
[illegible] 旨報ら

甚だ失敬過候段 [illegible]
弥御国 [illegible]
[illegible] 引揚 [illegible]
[illegible] 御断 [illegible]
[illegible] 差遣候 [illegible]

申津領 [illegible] 機川領 [illegible]
[illegible] 追々 [illegible]
[illegible] 引揚 [illegible]

五月五日

甲二六 於甲斐東海道副将智者参謀おもふ通ふて

甲斐ノ後ハ安心有一国各護壁副将智者明ラカ大音追々ニ

ニ居ノミニ非ス其ヨリ又後ノ体ヲ

ヲ見ル

北七 於北越小千谷陣中東山道總督有監軍岩村精一郎ヲ以傳達

御軍人々

今般 轟新之以来就征討 仰出ノ趣ハ

従大小諸藩益軍備ノ厳ニ参生之途ニ

思召候鴻大之 聖慮ヲ奉戴シ

宸襟ヲ候様 同心戮力矛忠赤連一ノ速成功ヲ

一海陸軍共進退駈引之義ハ其手々々之總督ニ委任被

仰付候條其旨可相心得事

一私論ヲ以公事ヲ誤リ各藩ニ區々ニシテ不相成様深ク心ヲ用

事別紙諸法度條々堅可相守事

右之條々於相背ハ可被處御軍法者也

大總督

海陸軍諸法度條々

一長官々々之指揮ニ隨ヒ諸軍嚴粛ニ覺悟アルヘキ事

一一勝ニ驕慢シ一敗ニ挫折スヘカラサル事

一進退之節ハ終勢ヲ二ツニ分テ其一ヲ先鋒トシ其一ヲ

中軍トシテ交番ニシテ可相勤事

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

但道之遠近地之廣狹ニヨリ二驛或ハ三驛ニ而配止宿
之義ニ可有之事

一 行軍ハ六里内外ヲ以定則トスヘキ事
但敵境ヨリ先キハ必四字ヨリ内着陣勿論之事

一 總勢之内交番ニテ身方地方ニテ十分ノ一敵地
ヨリ先キハ五分ノ一ノ人數ヲ以作候差出巡邏不怠可
相勤事

一 各藩ヨリ一両人ヲ總督陣営ニ可相詰事

一 時々ノ合ニ詞失念イタス間敷事

一 歸順之者ハ先ツ先手ニ相加ヘ置實行相顯ニ候上
寛宥之御所置ニ可有之事

一 宿陣之不自由宿驛人馬之間等無餘儀次第ハ令勘
辨聊機戒ヲ怠敷振舞弁無之様可相心得事

一 軍中ニオイテ上下貴賤寢食勞逸ヲ可同事

一 浮説流言等総テ軍勢之気降ニ相拘候事堅ク
可喝味方又ハ敵之情實ヲ探リ
ハ早速中軍ニ可申出事

一 猥ニ神社佛閣ヲ毀チ民家ヲ敎丈ニ家財ヲ掠ル
等亂妨狼籍ハ勿論相愼喧嘩口論又ハ陣場之
得事

一 外國人ニ行逢亂妨無禮難捨置節ハ召捕ニ置

一 中軍ニ申出軽々曲直ヲ判シ其國々之公使相糺至當之御所置可有之候ニ付猥ニ放砲斬殺等堅禁制之事

但外國人之居住ニ猥ニ不可立入事

一 銃砲弾薬并金穀等分取之品々ハ中軍ニ可申出事

右條々堅可相守者也

海陸軍 大總督

五月六日

(甲) 東山東海両道總督府并京都表ヘ左之通御届

一 去月廿三日御届申上候通江戸脱走之賊徒甲州ヘ入込此節
ヲ以御城代水野出羽守ヨリ應援之儀達有之不取敢一小隊并大砲
二門役揃之者共差出置候處甲州之形勢弥不穏ニ因而猶又一小隊并
共ニ十数名間行文一小隊并役揃之者共差出申候此段御届申
上候以上　五月六日

真田信濃守

(京) 五月七日

京都於太政官新ニ東西両道總督辞職之御渡ニ相成候　見聞録七ノ二十八ニ記ス

(甲) 五月八日

於甲府東海道副總督府ヨリ左之通御達

方今不容易時勢ニ付追テ御指揮有之迄如從前於當所
嚴肅ニ警衛可致旨副總督府ヨリ御内達之事

東海道鎮撫總督
副總督府

十月八日

甲

## 十月九日

於甲斐左之通沙汰

別紙之通雷鳴節當之者〻中後之条自無之得通之者計
ニ而律儀ニ取締被仰付置候ニ而滔相違之
者ニ而者無之候得共御用繁ニ付無拠御沙汰
ニ及ひ候事

別紙八云敢出度ニ付
鬼報録ニ十七号ニ在

## 十月十五日

甲

於甲斐左之通御達

是迄残留中ニ於テ雲井小谷等御取立之者
共ニ而者無之候得共御用繁ニ付無拠御沙汰
ニ及ひ候事

矢ヽ
謀
松代藩

京

軍務官ニ於テ五十川左京亮ヲ以左之御達
書出

先般御届申上候信濃浮人数北陸道ヨリ
引續尾州迄并同國新井驛迄繰込候處高田藩ヨリ
同所ヽ迄両藩在々加勢富山藩ヨリ長州
藩ヘ応援人数ニ而越後國新井驛迄繰込候
處高田藩ヨリ之届ニ而者無之候得共
藩別ニ長州ヨリ応援ニ人数北陸道ヘ
成ル丈人数ヲ繰込度旨ニ付追ヽ到着ニ相
成候ニ付テハ此上ハ東北ヲ鎮定中数後迄所ヽ
ニ屯集ニ而者
却テ御警衛并諸藩会議ニ差支ニ付去月廿七日ヨリ先陣高田ニ陣屯

此書ニ而ハ在ヲ
ヲ草迄御詰ニ
モ脱落ニ付事
情ヲ不得ニ付
御聞届ニ
モ
ヲ実行ヲ
ヲ訂正ノ仮
書

川落松平藩三陣営落無沼敷、千手驛ニ方ニ相向ヒ官賊往
二三百人、芋坂ニテ防ニ陣ヲ擁リ土塁ヲ築キ大小砲ヲ備ヘ
嚴重ニ守備ヲ設ケ如斯篇ケ候ニ依テ別隊ヲ以テ先ヲ相進ミ砲戦ヲ始メ候
砲隊相進ミ平原ガヲヨキニ向ヒ地形不便ヲ一同奮勉攻撃頻ニ
苦戦死傷ノ者多ク砲弾殆ド尽キ候ニ依テ別隊ヲ以テ
賊兵ノ横ヲ衝ク為メ砲隊ヲ残シ置キ大小千谷ニ方ヲ
廻ラシ南又雪峠ニ険ニ據リ大小銃砲ヲ発シ猛狼怒ニ千発乱射ヲ捨テ
頑強ニ防戦ス故ニ我兵モ亦多ク死傷ヲ出シ相支候
得共諸手一同合撃ニ及ヒ暫ニ追捲ヒ賊徒悉ク小千谷ニ方ニ敗
走候ニ付南直ニ池ノ原ニ申処迄相進ミ候日已ニ暮ニ及ヒ且雨後
泥途暗夜ニ乗ジ候ヲ以テ多人数有之候ニ付
篝ヲ焚不動ノ姿ヲ以テ夜中追急ケ候ヲ以テ七ツ頃小千谷ニ至リ同所陳屋ニ手
入候ニ賊徒已ニ落ヲ去候ニ付諸手一同ニ入可申ニ付
居民ニ安堵仕候ノ段ヲ以テ諸手陳屋ヲ受取倉庫等封印ヲ施シ
或ハ正益相追ミ長岡城下ニ於テ下戦後ニ方ヲ諸手一同ニ入可申ニ付
諸手ニ於テモ張リ詰メ居ル方ニ付中ニ為ニ右戦闘中討死負傷賊徒ニ付
取生捕ヲ取調候処別紙申上ノ通ニ候ニ付此段申上候以上
申上候仕候ヲ申ス義ノ有
七月十五日
北澤懐之助

新北裁監軍岩村精一郎ヨリ左ノ通達有之
稼生中子山寺木津村役人ニ諭藩ヨリ人足等頼ノ申分聞届ケ候ニ付且
平常困窮之村々ヨリモ等有之甚ダ迷惑之段申出ル事ニ候右ニ付
兵糧送リ具ニ械弾薬等ハ以来手人ニ及差送リ候様ニ致ス事

一小千谷ヨリ差送リ候品々ハ、戦場ニ用ニ申間敷ヲ
而戦場ニ用ニ申間敷ヲ

右之通御列藩下々迄厳重ノ事
東山道総督

御心得可被成候　五月十五日

甲

於甲府　東海道副総督ヨリ左之通通徳達

其藩兼テ当地出兵モ有之候得共尚一小隊人数迅速ニ可
東海道副総督

差登旨　御沙汰候事　五月十七日

東海道副総督

京

於京都軍務官ニ左之通ヲ
軍務官

先月十九日　仰出候軍資金ノ儀ニ付テハ
仰出候軍資金ノ儀ニ付テハ

御布告ノ趣モ有之候ヘ共尚又左ノ方ニ
御布告ノ趣モ有之候ヘ共尚又左ノ方ニ

軍防局御印章自五月十日軍務官ヨリ
軍防局御印章自五月十日軍務官ヨリ

可渡候事
可渡候事

北

薩州藩ヨリ大砲壱門并大砲方芝借受度旨申
薩州藩ヨリ大砲壱門并大砲方芝借受度旨申

出候ニ付、大砲芝同藩出張之大島口ニ差遣ス
出候ニ付、大砲芝同藩出張之大島口ニ差遣ス

五月十八日

御列藩初戦ヨリ死傷ノ詳細御書出シ可被成候
御列藩初戦ヨリ死傷ノ詳細御書出シ可被成候

以上

監軍

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

尾州藩　杉代藩　上田藩　高田藩　高遠藩　飯田藩　飯山藩
右之通布令候事



辛十七日相廻り白之官軍薩州加州富山高田ノ兵長岡考攻大島村ニ而
進軍同日ヨリ砲戦有之段報告候ニ付各藩ニ而
兼而軍務官ヨリ達之通
先般軍資金ノ内三万一當用ニ上納之儀仰付候ニ付
異存之旨申立候ニ付猶又及懇談候処
当時之形勢ニ而ハ
皇威ヲ困迫蒙候ニ至リ
皇国之
皇国ニ生レ
皇恩ヲ蒙リ候者ニ而ハ
皇国之為ニ
皇威ヲ輝シ候ハ
皇国ニ生レ
皇恩ヲ蒙リ候者ニ而ハ
皇国之為ニ
皇威ヲ輝シ候ハ



甚以不都合之儀ニ付厳重御糺之上
御処置可有之筈ニ候事
十月十八日
右之通布令候事
江戸上野山内屯集之彰義隊先達及砲撃候ニ付
官軍ヨリ砲撃仕候ニ付
彰義隊ハ速ニ乗之退去致候ニ付
速ニ市中取締方之儀
仰付候事
十月十八日
飛騨国　中津藩　杉代藩　上田藩　高遠藩
飯山藩　高田藩　飯田藩　演舌藩　之通布

五月十九日

京都軍務官ヨリ左ノ通御届

李月十五日御届申上候通官軍大勝利ニ付陳屋ヲ取拵ク業ヲ根
拠ニ致シ益進撃ノ機ヲ窺ヒ居候処賊徒ハ三百人余ノ会ヲ集メ北ノ方元貝澤近辺ヨリ
押出シ官軍ヲ包囲セントノ由ニ付即刻屋形山
ヨリ打出シ本陣ヨリ進軍ニ及ヒ賊徒ヲ敗走セシメ
候ニ付同夜相成ル丈ケ賊徒ヲ追撃ノ手配ヲ致シ
候処賊徒ハ多人数ヲ一同ニ追撃難ク大敗官軍大勝利ヲ成シ候ニ付
其段御届申上候

又官軍ヨリ

今般ノ戦争ニ付テハ官軍ノ義ハ勿論ノ儀ニ候ヘ共
人民ニ於テモ一同力ヲ合セ戦争ニ及ヒ候段
奇特ノ儀ニ付
右ノ段為念申達候

五月十九日

北澤懐之助

北越戦陣ヨリ軍令達

本文ハ北越ヨリ届出ノ儘ニテ原文ノ通リ書取候ニ付
文意不通ノ箇所モ有之候ヘ共
其儘ニ致置候

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

小出島近邊浦佐上邊一ノ郷村百姓トモ先逐駈之候段其後同村
庄屋初百姓共之内米穀貯置小前之者エ不賣拂難渋ニ及
ニ候ヨリ右之次第甚致懸念候間御人數之内兩三人モ右村
エ罷越百姓共エ申諭米穀貯置候者ハ小前之者エ賣拂共
々難渋ノ救合候様且右邊官軍通行又ハ滞陣等致シ迷
惑及ニ候ハヽ、是迄之賄等明細書記ノ上谷出張會計方
エ差出候様左候得者同所ニ方イテ相當之取計可致尚萬
端解諭致ニ候様監軍岩村精一郎ヨリ達有之右ニ付役員
差遣シ夫ヽ申諭ス

五月廿日

於北越總督府ヨリ御酒肴被下候段會計方松田祐之助ヲ以御達

京

軍務官ヽヨリ通ル

今般軍資金三分之一當月廿日迄ニ上納可仕旨被仰渡候ニ付
在所表ヨリ越後路且其道筋大雨ニ而川ヽ出水道中差
支候ニ付大坂用場ニ有之候金子ヲ以早速上納仕候様申越候間即
大坂表ニテ越後ノ者ヘ引渡シ而已ニ而満水通路相止ノ上御金ヲ越
後迄通達スル事ニ而ハ無之候間其段ハ不及申候
尤御金通路有之候上納ノ儀ハ其地ニ而引渡シ候ニ付
其段ノ御心得ヲ以御守衛被下候様ニ仕度
右ニ付御歸營御通路ノ儀ニ付私儀モ
モ其上參候上
直ニ御歸營仕度
北陸ノ儀ニ付
軍務御取計

鹽節九拾本　鮭九拾本　勝營之書
鉛酒六石八斗ヤ

甲

於甲斐國通御普請
當國武田家浪士有志之輩追々勤役之向之有之先々之御用
ニ相立候者可有之候條於其藩撰練等熟練考致置御
用ニ相立候樣可有盡力旨御沙汰候事

制詞智音　矢小謀

右之趣可相達藩中者也

甲

當府勤番人數之内不審之件之有之至急召捕之儀出張藩
々ヘ相達候ニ付其藩人數不取敢差出左之者可召捕矣小
諜ヨリ以上

樫田忠助　富田左京　志村藤十郎

右之者通行人共召捕差出

836
209
3

国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用